

鶴川東地区統合新設小学校の基本設計における配置案について

鶴川東地区統合新設小学校では、今年9月から公募型プロポーザルにて選定した設計者とともに基本設計を開始いたしました。現在、2029年度に新校舎の使用開始を目指して設計を行っており、設計のベースとなる建物の配置案を作成いたしました。

1 配置案について

2022年度に作成した「新たな学校づくり建設基本計画」を踏まえ、A案、B案、C案の3つで検討を行いました。

各配置案について、下記表1のとおり比較検討を行い、より良い評価を得たA案をベースとして設計を進めていきたいと考えています。詳細については別紙1「配置比較表」をご覧ください。

なお、教室などの諸室の位置、地域開放区画の範囲などの内部の構成については、今後検討を進めてまいります。また、仮校舎の配置や平面計画につきましても、新校舎の配置を決定後に詳細計画を進めてまいります。

【表1：各案の共通ポイントと比較ポイント】

建物配置		A案 校舎と体育館を北側に集約配置	B案 校舎を北側、体育館を南側に配置	C案 校舎を西側、体育館を南側に配置
【共通ポイント】		建設基本計画を踏まえた各案で共通するポイントです。 ① 配置諸室の種類及び室数、室の大きさ ② 学区画と地域開放区画のセキュリティの確保 ③ 放課後活動の拠点づくり ④ 市民生活の拠点づくり ⑤ 防災拠点機能の完備 など		
【比較ポイント】	教室移動距離	◎	△	△
		A案は、コンパクトな集約配置であり、B案C案に比べ教室間等の移動距離が抑えられる。		
	校舎の日当たり	◎	○	△
		A案は、全ての普通教室が南面採光であり、B案C案のように影がかかることや直射日光が届かないことがない。		
	校庭面積・ 校庭の日当たり	◎	○	○
		A案は、最も日当りに優れ、校舎を敷地北側に集約し最も校庭面積を確保できる（B案C案より約300㎡多い）。		
	近隣への影響	◎	○	△
	A案は、コンパクトな集約配置であり、B案C案に比べ最も近隣への日影や、周辺敷地に対する圧迫感が少ない。			
仮校舎の配置・ 仮校庭確保	○	△	○	
	A案C案は仮校舎使用中の校庭面積の確保がしやすく、また工事エリアとの距離も取りやすい。			
工事中の 安全確保	○	○	○	
	どの案でも、異なる出入口にしたり工事エリアを明確にすることで、工事車両と児童の動線を分けることができるため工事中の児童の安全を確保できる。			

2 設計及び建設のスケジュールについて

スケジュール	
2023 年度末	基本設計完了
2024 年度	実施設計・プール解体工事、仮校舎の設計
2025 年度	仮校舎建設工事
2026 年度～28 年度	仮校舎使用開始・本校舎解体工事・新校舎建設工事
2029 年度	新校舎使用開始・校庭整備